

## 世界初のLNG燃料パナマックス型石炭専用船「松陽<sup>しょうよう</sup>」の運航を開始しました

日本郵船株式会社（以下「日本郵船」）と九州電力株式会社（以下「九州電力」）が建造を進めていたLNGを燃料とする世界初のパナマックス型<sup>\*1</sup>石炭専用船（以下「本船」）が、10月2日に竣工し、最初のバンカリング<sup>\*2</sup>完了後、運航を開始しました。

本船の竣工にあたり、株式会社大島造船所（本社：長崎県西海市、代表取締役社長：平賀英一）の香焼<sup>こうやぎ</sup>工場にて命名式を行い、本船を「松陽<sup>\*3</sup>」と命名しております。

本船は日本郵船が運航を行い、九州電力の石炭火力発電所向けに海外から石炭を輸送します。LNG燃料を使用することで、従来の船舶燃料油に比べて、硫黄酸化物（SOx）は約100%、窒素酸化物（NOx）は約80%、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）は約30%の排出削減を見込んでおり、世界的な環境規制強化の中で、低炭素社会の実現に寄与できるものと考えます。

本船は10月2日に香焼工場を出港後、10月12日に戸畑港（福岡県）で陸上のLNG出荷設備から本船へ直接燃料を供給するShore to Shipでのバンカリングを完了しました。Shore to Shipでのバンカリングは、外航LNG燃料船としては日本初です。

本船はこのShore to Shipと、LNGバンカリング船によってバンカリングを行うShip to Shipの両方に対応した設計となっており、2024年3月以降は、九州・瀬戸内を拠点として新たに竣工するLNGバンカリング船からの燃料供給も予定しています。

日本郵船と九州電力は今後も、安定した燃料輸送の継続と環境負荷の低減の両立に向けて積極的に取り組んでまいります。

### <本船概要>

船名 : 松陽  
運航会社 : 日本郵船株式会社  
全長 : 235.0メートル  
全幅 : 38.0メートル  
載貨重量トン数 : 95,233<sup>ト</sup>  
建造年 : 2023年  
造船所 : 株式会社大島造船所  
船籍港 : 松浦（長崎県）

### <会社概要>

会社名	日本郵船株式会社	九州電力株式会社
代表取締役社長	曾我 貴也	池辺 和弘
本社所在地	東京都千代田区 丸の内二丁目3番2号	福岡県福岡市中央区 渡辺通二丁目1番82号

① 船体写真



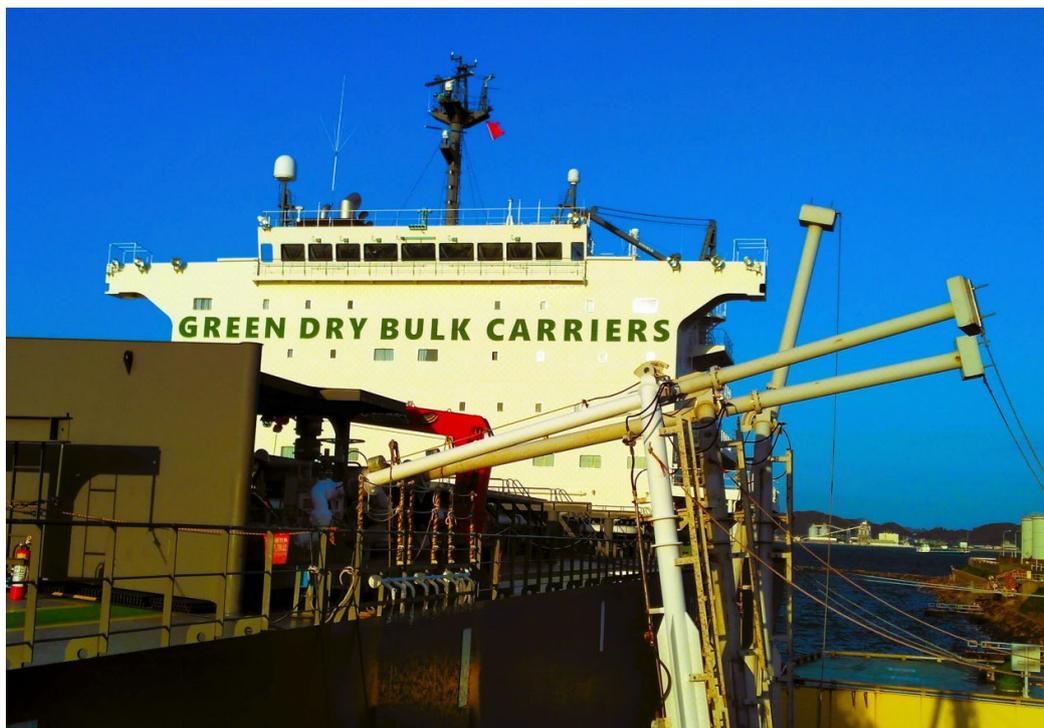
② 命名式の写真（6月26日 （株）大島造船所香焼工場にて）



前列左から5人目：満吉隆志（九州電力執行役員 エネルギーサービス事業統括本部 企画・需給本部 副本部長）

前列左から6人目：渡辺浩庸（日本郵船常務執行役員 エネルギー事業本部長）

③ バンカリング時の写真(10月11日 北九州エル・エヌ・ジー(株)<sup>\*4</sup>陸上出荷設備にて)



- ※1 載貨重量トン数 70,000~99,999 DWT トンの船をパナマックスバルカーとしている。世界初のLNG燃料パナマックスバルカーである点は2023年10月時点での日本郵船調査グループ調べ。
- ※2 船舶にLNG燃料を供給すること。
- ※3 日本郵船、九州電力等が保有するLNG運搬船「Pacific Enlighten」と同様、「明るくする」という意味を表現しており、九州電力松浦発電所(石炭火力)が立地する長崎県松浦市の土谷棚田(棚田100選選出)から見る夕日が松浦の名物であることも踏まえ、松浦から見る夕日(陽)をイメージした名前とした。船籍港も本船名の由来にちなみ松浦港で登録している。
- ※4 九州電力の75%出資子会社。  
代表取締役社長：岡田 健志  
本社：北九州市戸畑区
- ※5 日本郵船と九州電力間での本船の輸送契約書に関する基本協定書の締結については2019.12.25お知らせ済。

以 上